

令和2年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属高等学校	校長名	藤生 英行
幼児・児童・生徒数（R3.3.1現在）	736	学級数	18
2 教育目標等			
① 学校教育目標	<p>(1) 自主・自律・自由をモットーとする。</p> <p>(2) 全人的人間の育成という本校の伝統的教育精神を基盤として、知育、徳育、体育の調和をはかる。</p> <p>(3) 教科教育においては、特に、体系的かつ基本的な知識・技能・態度の修得の徹底を期する。</p> <p>(4) 特別教育活動においては、計画的、実践的、協力的人間の育成と生徒の個性の伸長につとめる。</p> <p>(5) 生徒指導においては、生徒の個人的な現実の問題の解決を援助するとともに、将来の進路の開拓を指導する。</p>		
② 学校経営方針	<p>(1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法等にのっとり、また本校の学校教育目標を達成するべく学校運営をすすめる。</p> <p>(2) 筑波大学の附属学校として教育実習や教員免許状更新講習等に協力し、また、先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点の3つの拠点構想の実現をはかるよう教育・研究活動を推進する。</p> <p>(3) 全教員の積極的な参加と協力によって学校運営を行うことにつとめる。</p>		
③ 重点目標	<p>(1) 情報セキュリティの強化</p> <p>(2) 将来構想委員会を中心とする本校の将来構想の検討</p> <p>(3) 教育活動の外部への発信</p> <p>(4) 中長期的な校内の施設設備及び財政運営の検討</p> <p>(5) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減</p> <p>(6) 保護者・地域住民との連携の強化</p> <p>(7) キャリア教育の充実</p>		
④ 前年度（令和元年度）の成果と課題	<p>(1) カリキュラム委員会での議論、将来構想委員会の設置など、新教育課程や本校のあり方・将来構想の検討を進めている。</p> <p>(2) 教育環境改善経費（保護者負担）の中期的な予算立てをし、施設設備改善への取り組みを始めた。</p> <p>(3) 分掌ごとの「1年間の総括と翌年の計画」の作成と共有をはじめ、学校の業務のPDCAサイクル化を進めた。</p> <p>(4) お茶の水女子大学附属高等学校と連携してのキャリア教育の開発及び実践を継続した。</p> <p>(5) 後援会会則等検討委員会の発足など保護者との連携強化の取り組みを開始した。地域住民との連携はできなかった。</p> <p>(6) 教育活動の外部への発信は改善できなかった。</p> <p>(7) 生徒の個人情報保護など情報セキュリティに関する管理不足があらわになった。</p>		

3 重点目標達成についての総括的評価

- (1) 情報セキュリティの強化については、外部講師を招き教員講習会を行い意識を高めるとともに、引き続き「筑波大学オンラインストレージシステム」の活用を推進した。
- (2) 将来構想委員会を中心とする本校の将来構想の検討については、教員の意識調査を実施するとともに教科指導におけるセールスポイントの絞り込みを行い、中長期的な計画を検討した。
- (3) 教育活動の外部への発信については、コロナウイルス感染拡大に伴い、対面の活動は充分には出来なかったが、入試広報部を中心にオンラインなど方法を工夫し可能な限り行えた。
- (4) 中長期的な校内の施設設備及び財政運営の検討については、保護者よりいただいている教育環境改善経費を用いた施設設備更新の中期計画に基づき、具体的に進められた。
- (5) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減については、校務支援システムの導入を決定するに至ったが、本格稼働は来年度に持ち越すこととなった。
- (6) 保護者・地域住民との連携の強化については、PTA からのアドバイスを受け、保護者アンケートを実施し、新たな寄付金制度を立ち上げた。
- (7) キャリア教育の充実については、お茶の水女子大学附属高等学校との合同キャリア教育プログラムを、オンライン等方法を工夫しながら可能な限り実施した。

4 令和3年度の学校課題

- (1) スクールミッションとスクールポリシーの策定
- (2) 本校の将来構想の検討
- (3) 教育活動の外部への発信
- (4) 中長期的な校内の施設設備及び財政運営の検討
- (5) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減
- (6) 保護者・地域住民との連携の強化
- (7) キャリア教育の充実
- (8) 情報セキュリティの強化

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- (1) 将来構想委員会を中心に全教員で、スクールミッションとスクールポリシーを策定する。
- (2) 附属学校教育局将来構想検討委員会と連携しながら、将来構想委員会を中心に本校の将来構想を検討する。
- (3) オンラインを含め、この時代ならではの方法を模索し、教育活動を外部へ発信する。
- (4) 教育環境改善経費と寄付金を用い、施設設備更新の中期計画に基づいた具体的な工事を進める。
- (5) 校務支援システムを本格稼働させ、教員の負担減を図る。
- (6) 引き続き保護者の意見を吸い上げつつ、保護者アンケートの結果も踏まえた寄付金の利用を進める。
- (7) 個々の生徒のキャリアパスポート作成を指導するとともに、お茶の水女子大学附属高等学校との合同キャリア教育プログラムを拡充していく。
- (8) 学内の研修の徹底を図り、「筑波大学オンラインストレージシステム」や校務支援システムを積極的に利用する。

6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

『筑波大学附属高等学校研究紀要 第62巻』

学 校 評 価 （ 自 己 評 価 ） 報 告 書 （ 項 目 別 表 ）

令和 2 年度

学校名	筑波大学附属高等学校
-----	------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-3	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の状況	日頃から、実験実習を通じた体験的な学びや、学習したことから自分の考えを深めたり発表したりする学びを大切にしている。特に「総合的な探究の時間」では、テーマを自分で見だし研究し成果を発表する取り組みが出来た。
2-1-3	児童生徒の能力・適性等を発見するための工夫等の状況	「総合的な探究の時間」で主体的に研究に取り組むことを通して、自分の興味関心の対象や得意な分野などについて考えさせることが出来た。卒業生から実際の仕事や研究について話を聞く機会を設け、卒業後の進路とも結びつけて考えを深める機会とした。
8-1-4	校内研修・校外研修の実施・参加状況	新型コロナウイルス感染症対応のためのオンライン授業に関する研修会を複数回実施し、2021年度から実施する新学習指導要領に基づく「総合的な探究の時間」に関する教員研修も繰り返し実施した。個人情報インシデント対策としての教員対象研修会も行った。結果、「校内における重要な課題について研修の機会を持てた」と教員自身が実感するに至った。
9-1-2	学校の状況を踏まえ重点化された短（中）期の目標等の設定の状況	新型コロナウイルス感染症の感染予防のための施設・設備を必要に応じて準備し、2021年度入学生の1人1台PCの実現やそれにとまなう校内設備の充実について、具体的な取り組みが進められた。また、テニスコートの改修についても、2021年度に入ってから動き出せるところまで漕ぎ着けた。
9-3-1	児童生徒・保護者の満足度の把握の状況	新型コロナウイルス感染症の影響で、予定されていた行事が中止や実施形態の変更を余儀なくされ、日常の学校生活についても大いに制限を受け、生徒も保護者も充実感を感じにくい一年であった。一方で、今年だからこそその新しい取り組みで一定の満足に達した生徒も少なくない。
10-1-3	児童生徒の個人情報の保護の状況	校務支援システムの導入や「筑波大学オンラインストレージシステム」の有効活用等の具体的な取り組みと平行し、外部講師を招いての教員対象の情報インシデント対策研修会や学内研修を実施することで教員の意識向上を図った。
11-1-1	学校運営へのPTA（保護者）、地域住民の参画及び協力の状況	通常のような対面での行事が難しい期間が長かったが、オンライン会議などを活用し、向上会理事会でご意見をいただき、学校運営に生かした。また、卒業直後に保護者アンケートを実施し、忌憚ないご意見や今後の本校に対する期待を寄せていただき、次年度以降、活用出来る形を整えた。オンラインとなった文化祭では地域とのコラボ企画なども行うことができた。
14-1-4	教員養成・教師教育	通常年2回行っている教育実習を、年1回と変更しながらも行った。また、オンライン授業に対応した研究会を実施し、好評を得るとともに、通常の研究大会もオンライン実施した。

14-1-5	国際交流・国際貢献	実際に海外を訪問したり海外の生徒を招聘する取り組みは出来なかった。代替行事として、オンラインで海外の生徒と交流する、海外での発表活動を一部国内において披露する等、可能な限り実施することが出来た。生徒の国際的な関心を絶えさせることなく活動出来た。
--------	-----------	--